特234
272

始

特234
272

愛知縣鄉土教育研究會編

愛知縣誌

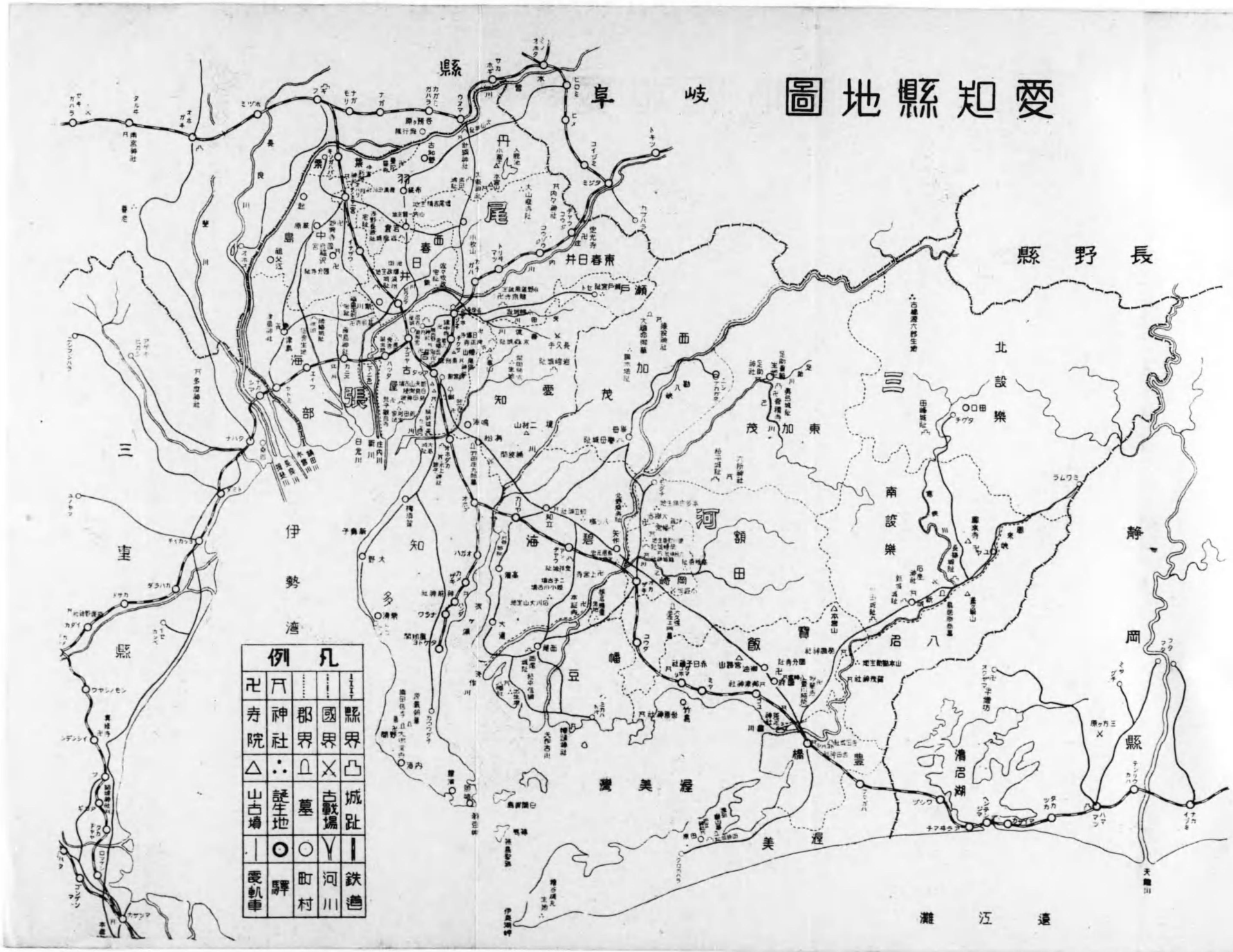
鄉土教育

東京
名古屋
晟弘社版

昭和
帝國
北五・名

縣
羽
西
春
日
井
中
島
海
部
張
古
屋
三
重
縣
伊
勢
灣
知
多
例凡
縣界
國界
郡界
寺院
神社
城趾
古墳場
墓
山古墳
誕生地
鉄道
河川
町村
驛
電軌車

愛知縣地圖


岐阜縣
長野縣
三重縣
伊勢灣
遠江灘
濃美海
濃美海
濃尾平野
愛知郡
愛知縣
知多郡
碧海郡
額田郡
幡豆郡
宝飯郡
北設樂郡
南設樂郡
東加茂郡
西加茂郡
東春日井郡
西春日井郡
丹羽郡
中島郡
海部郡
名古屋
岡崎
豊橋
豊田
瀬戸
犬山
津島
一宮
尾張
三河
例凡
縣界
國界
郡界
城趾
鉄道
河川
町村
墓
古戰場
山古墳
寺院
神社
誕生地
驛
愛軌車

はしがき

愛國心の基礎は愛鄕心に在り、鄕土を愛する至情は其の理解に依りて起り、國家を愛護する熱情は國民の自覺に依りて起る。

學習は近きより遠きに及ぼすべく、地理・國史の教授は必ず鄕土より出發すべきは教育教授の定法なり。

現代の時勢に鑑みて愛國愛鄕の純情を涵養し、學習上の常道として鄕土教育の極めて重要なるは最も明白なる

所、文部省が近來切に鄉土教育の振興を奬勵するは蓋し故あり。

本書は此の要求に應ずるため、特に編纂せるもの、希は地理教授の初期に於て、十分に之を活用せられんことを切望して止まざるなり。

日本鄉土教育研究會

鄉土教育

愛知縣誌

目次

第一　名古屋……一
第二　瀨戸市……一七
第三　中央線・高藏寺及定光寺……三
第四　小牧山・犬山・木曾川下り……三三
第五　清洲・一ノ宮・尾張平野……三七
第六　關西・尾西沿線……三一
第七　新舞子・大野・常滑・野間・內海……三四
第八　師崎・篠島・河和……三八
第九　武豐線・龜崎・半田・武豐・知多半島……四〇
第十　愛知電鐵・鳴海・有松・知立……四三
第十一　刈谷・高濱・大濱・宮崎・西尾……四五
第十二　擧母・猿投・足助……四八
第十三　安城町・明治用水……五〇
第十四　岡崎市……五三
第十五　蒲郡・豐橋市……五六
第十六　二川町及其の附近……五九
第十七　豐川町……六一
第十八　新城・長篠……六四
第十九　鳳來寺・鳳來寺山……六五
第二十　鳳來寺鐵道及田口鐵道……六七

第二十一　渥美半島……六九
第二十二　愛知縣の產業……七三
第二十三　愛知縣の財政……八三
第二十四　愛知縣の總括……九四

鄉土教育　愛知縣誌

愛知縣鄉土教育研究會編

第一　名古屋

愛知縣の中心は名古屋市である。名古屋は古へ那古屋又は那古野と呼ばれ、人家の少い野原であつたのであるが、今から約四百年の昔なる大永年間に今川氏が始めてこゝに城を築き、次で享祿年間に織田氏の居城となり、一時廢城となつたのであるが、江戸時代になつて、慶長十一年に德川家康が其の子義直を尾張に封じ、同十五年諸侯に命じて大規模の築城を爲してから、累代封をつぎ、尾張三河の中心地となり江戸時代を通じて御三家の一なる尾張侯德川家の城下として江戸と京都との中間に在る所から中京とも稱して明治維新に及んだのである。

今や名古屋市は人口百萬に及び、東京・京都・大阪の三市に次いで神戸・横濱と共に本邦中央部の大都市となつて威張つて居るのである。

中心

名古屋市の中心地は本町・廣小路の地域であるが、其の目標となつて居るのは矢張り北部の名古屋域と南部の熱田神宮とである。名古屋市は行政上中區・東區・西區及び南區の四區に區劃せられてある。

名古屋城

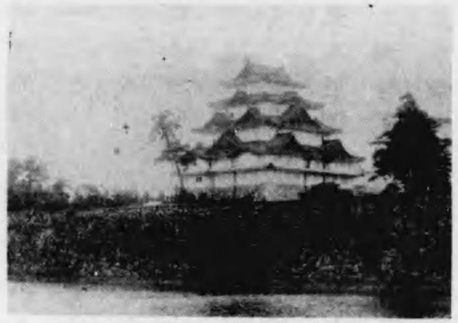
古くから

伊勢は津でもつ津は伊勢でもつ

尾張名古屋は城でもつ

と謠はれて來た通り、名古屋城は今日でも、實に名古屋の中心目標となつて居るのである。

名古屋城は前述の如く、德川家康が慶長十五年に、前田・淺野等二十二の大諸侯に命じ、加藤清正を築城の總大將として築造せしめ



名古屋城

たものであつて、尾張侯三百年間の居城であつたのである。維新後宮內省の所管となり、名古屋離宮となつて居たのであるが、先年名古屋市に御下賜になり、今日では名古屋市が之を管理することになつて居るのである。

當初の城廓は本丸・二の丸・三の丸・西丸・御深井丸に別れ、東を大手、西を搦手(からめて)とし丘陵の突端を利用して築かれたので、西と北とは高い石垣が築かれ、周圍には二重の濠を繞らして固められて居たのである。

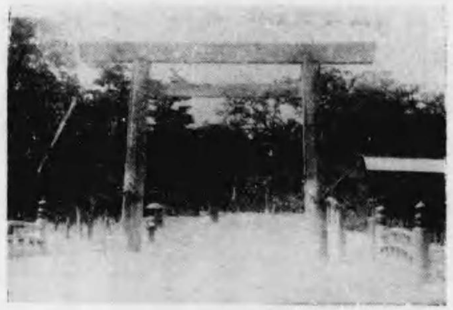
有名な天守閣は本丸に在り、藩主の居館及び隅櫓と共に今尙殘存して居るのである。黃金(きん)の鯱(しやちほこ)を屋上に戴いて居る五層の大建築で加藤清正が自ら請うて築いたものと傳へられ、第一階は東西

十八間・南北二十間で五百三十餘枚の疊が敷かれるといふことである。最上の第五階でも東西七間・南北九間もある。此の最高層からの展望は實に雄大で、尾濃平野・伊勢海を一眸の中に收められ、遙に近江の伊吹山や木曾の御嶽・飛驒の乘鞍・さては駿河の富士山までも望み得られるのである。外から汽車で名古屋へ入り來る旅客の目標となるのみならず、此の天守閣からの展望は、實に天下一品と申しても敢て過言ではない壯大雄偉なる眺めである。

天主閣の麓に在る舊藩主の居館は車寄玄關の虎の間二室・表書院の四室・對面の間二室・鷺の廊下・梅の間より大奥なる上洛御殿に至るまで規模頗る宏壯、狩野貞信及び山樂、さては土佐光起の筆に成る極彩色の襖障子等で飾られ、いかにも當時豪奢のあとを思はれる壯麗なものである。

天守閣や右の居館の外部なる二の丸と三の丸の址は、今は兵營になつて居る。

熱田神宮へは東海道線の名古屋驛から電車で、廣小路榮町を經ても、また直ぐ南へ直行しても往けるし、同線の熱田驛で下車して徒歩または電車でもすぐにゆける。



熱田神宮

參道は表參道・東參道及び西參道の三つがある。電車で參る者は多く神宮東門前停留所で下車し、東參道に依つて參入してゆくのである。

熱田神宮は官幣大社で、天照皇大神が皇孫瓊々杵尊に授け給ひし三種の神器の一なる草薙神劍をお祀りしてあるのである。此の神劍は八咫御鏡と共に伊勢神宮に奉祀せられてあつたのであるが、景行天皇の御代に日本武尊御東征の際に伊勢神宮に詣でられし砌、御神慮に依つて御姨齋宮の倭姫命から叢雲劍を御授けに

なり、尊が之を奉じて御東征の御途次、駿河國で野火の賊難にお逢ひなされし折、其の劍をお拔きになつて草を薙ぎ攘はれて、難を免れ給うた以來草薙神劍と申すことになつた史實のある御劍で、尊が御東征を終られて歸られ、尾張國の造建稻種の妹宮簀姫を娶りて留まられしが、近江の伊吹山の荒振神を平らげ給はんとて、御劍を宮簀姫の家に置きて徒手登山せられしに、山神の毒氣に觸れさせられて、伊勢の能褒野に至つて遂に薨去ましましたが、留め置かれた神劍の靈驗著はるゝので、社を建てゝ之を祀らせられたのが熱田神宮の由來で、伊勢の大廟に次いで皇室の崇敬、國民の尊崇する所となつて居るのである。

神宮の御本殿は明治二十六年に伊勢神宮にならひ改築せられた神明造の社殿で、其の外に東隣に舊土用殿がある。また海上門と稱する神宮の舊正門がある、織田信長の改築に屬し、鎭皇門と稱する神宮の西門があり、桃山時代の特徵を存し、共に國寶に指定せら

白鳥陵

ダンブ山古墳

七里の渡

れてある。幾多の寶物も國寶になつて居る。例祭は毎年六月二十一日で勅使の御差遣があり奉幣せられるのである。

日本武尊の御陵と傳へられて居る白鳥陵は神宮の西北數町の所に在る。天保年間に其の石廓内から六鈴鏡・太刀・玉類・齊奠・馬具などが發見せられたと云つて居る。

白鳥御陵

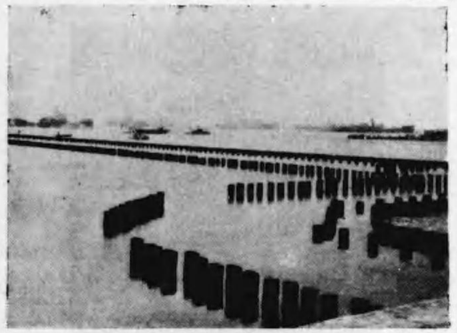
白鳥陵の北數町の地に前方後圓の雄大な古墳がある。ダンブ山古墳と稱せられ、入口に宮簀媛命御墓と標示せられてある。白鳥陵と共に神宮の所管になつて居る。

熱田港は今は大名古屋港の一部になつて居るが、德川時代には單に宮と稱し、此處から伊勢の桑名に至る海上七里を七里の渡し

と呼び、熱田と桑名とは相對して東海道五十三次の極めて重要なる宿驛であつたのである。

名古屋港

名古屋港は中部日本に於ける重要なる貨物の集散地で、長さ一萬九百米もある防波堤やら、防砂堤を初めとして、棧橋・臨港鐵道・倉庫などの設備整ひ、一萬噸級の汽船八隻を容れて猶ほ餘裕があるといふ近代的築港であり、大阪との間に大阪商船會社の定期船が絶えず往來し、伊勢の四日市・津・志摩の鳥羽・波切並に紀洲の尾鷲・木之本・新宮・勝浦・串本・田邊及び和歌山等を縫ふて旅客及び貨物の輸送をなして居る。輸出の重なる物は綿織物・陶磁器・箱板・ビール・時計・紡績機・織布機等で、其の年額五千萬圓に近く輸入の重なる物は羊毛・小麥・木材・石炭・大豆・豆糟・粗



名古屋港

糖・洗鐵・綿絲等で其の年額七千萬圓を超えて居るのである。

裁斷橋遺址

熱田は今は名古屋市南區に屬し、其の傳馬町には有名なる裁斷橋の遺址がある。天正十八年小田原役で戰死した十八歳の青年堀尾金助の三十三回忌に、其の母が愛子菩提のために架けた橋の址で、現存の擬寶珠の左記の銘文は當時の母の悲しき至情を十分に察せられて涙がこぼれるのである。

てんしやう十八ねん二月十八日おたはらへの御ぢんほりをきん助と申す十八になりたる子をたゝせてより又ふためとも見ざるかなしさのあまりにいま此はしをかける事ははの身にはらくるいともなりそくしんじやうぶつし給へいつがんせいしゆんと後のよの又のちまで此かきつけを見る人念佛申し給へや三十三年のくやう也

本遠寺

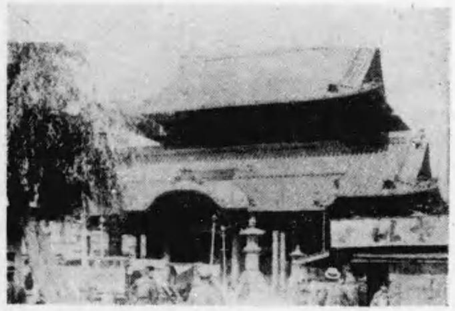
日蓮宗の本遠寺は南區熱田町田中町にある。應安年間の創建と傳へられ、其の表門は國寶になつて居る。其の突當りに法華堂がある。

工廠

大規模なる名古屋工廠や日本車輛工場は共に熱田驛東北に隣接して設けられてある。

大須觀音

熱田から電車で名古屋の中心地帶の榮町へ往くのであるが、其の途中の西寄りに有名な大須觀音があるのである。



大須觀音

大須觀音とは通俗の稱呼で、本名は寶生院眞福寺である。新義眞言宗に屬し中區門前町に在るのである。本堂は明治年間の再建であるが、多くの珍籍古書を藏するので名高く、參詣の男女で毎日境内を埋めるといふ有樣である。

七ッ寺

有名な七ッ寺は其の南隣に在る。天平年間の創建で、始めは尾張國中島郡の七寺村に在つたのであるが、天正年間に清洲に移し、慶長年間名古屋築城と同時に更に今の

本願寺別院

本願寺別院

中心地帶

地に移されたものである。本堂は本尊の阿彌陀三尊持國天像及び多聞天の像と共に國寶に指定せられてある。

西本願寺の別院及び東本願寺の別院は更に南方數町の所に在つて宏大なる構へである。

榮町と御幸本町とが共に廣小路線に依つて横斷せられて居るのであるが、其の邊の一帶が名古屋市殷盛の中心地帶である。名古屋郵便局・榮屋・松坂屋などの大物を初めとして大商店軒を並べ、銀行會社相連り、古くは「名古屋本町江戸勝り」

榮町松坂屋

と稱せられて居たのであるが、今日でも此の御幸本町と榮町とが廣小路を通じて、眞に大名古屋市の中心たるを失はないのである。

縣廳

萬松寺の菊で聞えた黄花園も近くに在る。

鶴舞公園

愛知縣廳は廣小路筋の武平町に在る。

鶴舞公園は市の東部に在る。明治四十二年内國勸業博覽會々場の後を承けて開園したもので、規模頗る廣大、總面積一千アールに近く、和洋兩樣の風景を兼備し、泉池・築山・茶亭・花壇・栽込等の佳趣何れも相當に手が屆き、散策遊覽に適して居る。猶ほ園内に動物園・音樂堂・運動場・圖書館・聞天閣・公會堂等もあつて、公園としての設備萬端行屆いて居るのである。

鶴舞公園

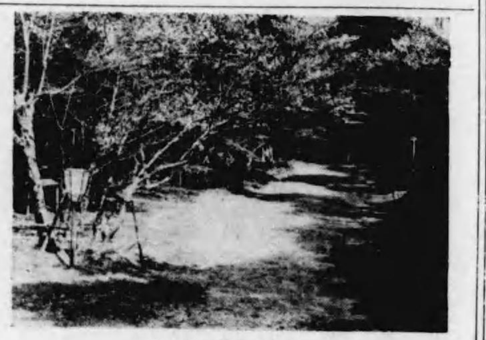
八事山

有名な八事山は市の東端に起伏する

覺王山

東山の一部を利用した自然的遊園地で、面積九百アールに及びグラウンド其の他の設備もあり、近くに野球場もあつて、運動を目的とする自然趣味散策の好適地である。

覺王山は市の東部に連る東山の一部でもとは月見の坂と呼ばれた地名所として名高い月見坂とである。今は名古屋驛から廣小路を經て名古屋市を横斷する電車が絶えず直通往來し、途中市の南北各方面へ多くの支線を出して市内各所へ交通の便を與



八事遊園地

覺王山

へて居る。

此處は明治三十七年に日暹寺を建立するに當り、四千六百アールの地を劃して其の境内としたもので、境内には櫻樹・躑躅頗る多く、松樹と相交つて遊樂地として頗る風致に富んで居る勝區である。

日暹寺は明治三十三年に暹羅から分與せられた佛舍利を奉安するために建設したもので、放生池の東方なる臺地上に佛骨奉安塔が築かれてある。

奉安塔の左方には征露戰勝記念碑が建てられてある。

東照宮

縣社東照宮は名古屋城に近き西區茶屋町に在る。元和五年尾張藩祖德川義直の創建したもので、もとは名古屋城内の三の丸に在つたのを明治九年に此の地に移されたのである。社殿は權現造りで、毎年四月十六、十七の兩日に亘つて催さるゝ例祭は俗に名古屋祭と稱して非常な賑ひを呈するのである。

那古野神社

縣社那古野神社は東照宮の東隣に在る。須佐之男命を祀り、俗に龜尾天王社と稱して居る。東照宮と同じく城内の三の丸から此の地に移されたもので、六月の例祭は天王祭と稱して有名なものである。

中村公園

秀吉の誕生地として名高い中村公園は西區に在る。名古屋驛から西方約三粁あるが電車が通じて居る。面積は九十二アールであるが、自然の池と森とを取入れ、純日本式の庭園として頗る趣味のある公園である。園内に豐國神社があり、其の右方竹籔の中に豐公誕生之地と刻した石標が建てられてある。園の東部には運動場もある。

東南隣の妙行寺境内は加藤清正の誕生地で、文化七年に建てられた加藤肥後

中村公園

侯舊里碑がある。此の妙行寺は慶長十四年に清正が名古屋城建築の餘材で自分の舊宅の址に再建したものであるといふことである。

長母寺　荒子觀音

東區矢田町に在る長母寺や南區荒子町に在る荒子觀音は共に信心家の多く參詣する處である。

學校官廳

名古屋には第三師團司令部・歩兵第五旅團司令部・歩兵第六聯隊等ある外、控訴院・稅務監督局・專賣局・帝室林野管理局・名古屋遞信局・鐵道局・測候所・中央放送局・工業試驗場・商品陳列所等があり、學校には醫科大學・第八高等學校・高等工業學校・高等商業學校並に幾多の縣、市、私立の中學校・高等女學校・商業學校・工業學校等がある。

特産物

名古屋の特産物は七寶燒・時計・陶磁器・一閑張・守口漬・大根切干・こがね等である。

要之名古屋は近代的商業都市であると同時に現代的工業都市で幾多の大工場があり、市民の勤儉力行と忍耐持久とに依つて、地

龍泉寺

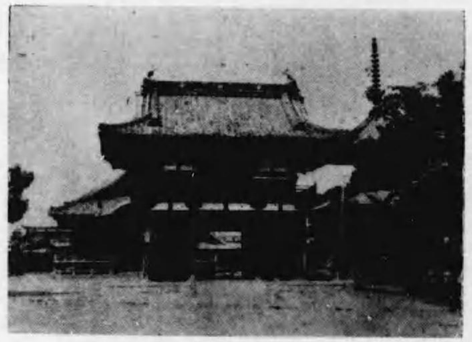
の利と交通の便とを活用して思ひ存分の活動を續け、隆々として發展してゆく素晴らしい都會であるのである。

第二　瀨戸市

名古屋から瀨戸へは早くから瀨戸電鐵が通じて居る。

瀨戸電鐵の小幡驛の北半里餘りの志段味村吉根に龍泉寺山といふがあり、其の頂上に天台宗の龍泉寺がある。延曆年間傳教大師の創建と傳へられ、山上より近くは名古屋城・小牧山を望み、遠くは美濃の惠那岳・木曾の御嶽・加賀の白山・近江の伊吹山等の連峰を展望せられ、眺望極めて宜しい。

同電鐵の印幡驛の東南一里半ほどの



長久手古戰場

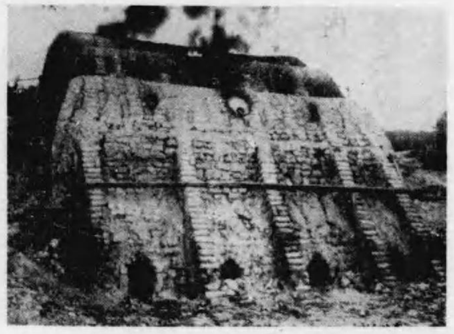
瀬戸市

長久手古戰場址

長久手村は天正十二年小牧山の戰に豐臣方の池田信輝が德川方の本據なる岡崎を衝かうとして、却つて家康に逆襲せられて大敗した古戰場である。附近に長久手城址、御旗山等の址が殘つて居り激戰地首狹間には信輝父子並に森長可の戰死の碑がある。近くの色金山は公園となり眺望頗る宜しい。

瀬戸電鐵の終點は尾張瀬戸驛で瀬戸市は昭和四年十月一日に市制を布き人口四萬に近く、庄内川の支流なる矢田川の流域に在り、東方に名高い猿投山がある。

瀬戸市は陶磁器を通俗に瀬戸物といふのと同樣に陶磁器に依つて出來た市である。此地陶磁器の元祖は藤四郎本名は加藤四郎左衛門景正で遠く鎌倉時代に道元禪師に從つて宋に渡りて製



陶器製造窯

陶の術を學び、歸朝して此地に此業を始めたのである。室町時代には志野燒を、桃山時代には織部燒を、江戸時代には御深井燒を製出して累代名聲を博して來たものである。今日本市が本邦陶磁器の主要なる產地として天下に其の名を馳せる樣になつたのも決して偶然ではないのである。

陶磁器の原料たる木節土、蛙目等の陶土が市の内外に豐富に埋藏せられて居り、石炭を燃料とする石炭窯、石膏型を利用する鑄込法など近時益々科學的、器械的となつて來て居るのである。

最近の統計に依ると、陶器工場百、磁器工場三百、陶磁器工場百七十、職工六千人、六十四の繪畫燒付工場に三百四十人の職工が居る

砂防工事

といふ有様で、其の盛況以て知るべきである。

年製産額は一千七十萬圓に達し、本邦の陶磁器總産額七千八十萬圓の一割五分を占めて居るのである。而して當市製産品の四割二分は內地向の食器で、二割四分は輸出向食器で、其他は家具・裝飾品・建築用品・電氣具・衛生用品・玩具などで主要なる輸出先は支那・南洋諸島・北米・歐洲等である。

瀨戸公園は市の東北部の丘陵を開拓して公園としたもので、園內に在る陶製の陶工元祖の碑は寛政年間に建てられた珍らしい記念碑として名高いものである。

瀨戸電鐵の終點尾張瀨戸驛の近くにある深川神社の寶物になつて居る狛犬は、瀨戸燒の元祖藤四郎の作と傳へられて居る逸品で、附近の陶磁工商同業組合に依つて保管せられ、國寶になつて居る。

中央線
密藏院
高藏寺
定光寺

第三　中央線・高藏寺及定光寺

中央線は名古屋を起點として市の東部を東北に迂回し千種・大曾根の市內驛を經て郡部に出でゝ勝川・鳥居松・高藏寺・定光寺の諸驛を經て岐阜縣に入り多治見驛に着くのである。

鳥居松・高藏寺兩驛の中間篠木村にある天台宗の密藏院は嘉曆年間慈妙上人の創建と傳へられ、本尊の釋迦如來は國寶になつて居る。

高藏寺は別にさしたる物もないが驛の東北約半粁に高藏寺があり、其の所藏する十二の佛畫は有名である。

定光寺驛で下車し玉野川を渡り東へ約一粁山麓を登り應夢遊

定光寺

園地の傍らから參道に入り往くと、展望に富んだ定光寺の境内に達する。建武三年の創立で本尊は地藏尊、本堂は明應二年の再建にかゝり國寶に指定せられてある。

當寺には尾張藩祖德川義直の廟がある處から江戸時代を通じて尾張家の援護を受けて來たものである。

驛から東方の對岸を眺めた山の景色は頗る幽邃で他に類似少き佳景である。汽車は川に沿ひ數多くのトンネルを通つて多治見に向ふのである。

第四　小牧山・犬山・木曾川下り

名岐鐵道の電車は、名古屋驛近くの柳橋驛を起點として北犬山

方面へ走つて居る。其の途中岩倉驛から小牧へ支線が出て居る

小牧山は小牧驛の西北一粁なる小牧町に在る。山は小さいが尾張平野の中に唯一つ屹立して居るので、何處からもよく目立つのである。山としては何んでもない不生産的の丘であるが歴史的に名高いのである。即ち織田信長が築城した後を利用して、天正十二年に德川家康が此の城に據り、織田信雄のために豐臣秀吉と戰つた有名な小牧の役は此地に演ぜられたのである。今でも頂上に本丸の址があり、石壘の礎石などが殘つて居り史蹟として指定せられてある。全山樹木生ひ茂り周圍の展望頗る宜しい。山の中腹に明治二十一年に建設せられた創垂舘といふのがある。

小牧山

犬山町は電車犬山驛の所在地で、犬山口驛と犬山橋驛との間に在る。成瀬氏の舊城下で、木曾川の南岸に位し、人口一萬二千、犬山橋を渡ると岐阜縣の鵜沼町で高山線の鵜沼驛に出るのである。木曾川岸には名岐鐵道が經營する洋風の犬山遊園地がある。

犬山城は木曾川に臨める犬山の山頂に在つて四邊の展望頗る廣く、南方は犬山町の市街を下にして遠く尾張平野を望み、小牧山は手に取る如く見える。北方は木曾川を脚下にして遠く加賀の白山も眺められ、西北には岐阜の金華山も見え、實に雄大景勝の地境である。

犬山城

城は天文年間斯波元勳の築城にかゝると傳へられ現存の天守閣は慶長年間豐臣氏の臣石川氏が美濃の兼山城を移

築したのであるといふことである。元和三年成瀬隼人正成が三萬石で此處に封ぜられ江戸時代を通じて此城に居り、以て明治維新に及んだので城址は今猶ほ成瀬子爵の管理に屬して居るのである。城址は今公園になつて居るが中腹に縣社針綱神社がありて延喜式内の古社で尾治針名根連命を祀つてある。

國幣中社大縣神社は犬山口驛の南約三粁なる樂田村本宮山の麓に在る。大縣社を祀り延喜式名神大社に列せられ、尾張五社宮の一に數へられた著名な神社で武門庶民の崇敬頗る厚く、今の社殿は萬治三年藩主德川光友の建築する處である。例祭は毎年十月十一日である。

本宮山は海拔三百三十米の小山であるが山姥に關する傳說を有し、其の頂上には大縣神社の奥宮があり眺望頗る宜しい。山腹の研石は年の豐凶を知る靈石として傳へられ元日に登山する者が多いのである。

有名な木曾川下りは夙くは齊藤拙堂の紀行に依りて名高く、近くは志賀矧川が歐洲のライン河に似て居ると云つたのがもとで「日本ライン」の名で四方に聞えたものである。

木曾川下りをするには、尾張からならば、名古屋又は一ノ宮から名岐電鐵でライン遊園驛で下車して土田乘船場から乘るかまたは其の次の今渡驛で下車して今渡乘船場から乘船すべく岐阜方面からならば高山線の古井驛又は美濃太田驛若くば坂祝驛で下車して最寄り乘船場から下るのである。何れにしても犬山橋下までが普通の遊船區域である。此の間の流域急流と深淵、兩岸相迫りたる奇岩怪石、幾多の名勝を逐次に賞觀しつゝ漕ぎ下る情趣は實に清遊の極といふべきで、

日本ラインの一

天下多くの人々が四方から來り遊ぶのも決して故なきにあらずである。

第五　清洲・一ノ宮・尾張平野

東海道本線の下り名古屋驛の次が枇杷島驛それから稲澤驛を過ぎて一ノ宮に着き、更に北進して木曾川驛を經て木曾川を渡りて岐阜縣に入るのである。

枇杷島驛はまだ名古屋市内であるが有名なる青物の集散地で多量の蔬菜類が集り來り、之を全國の遠近各地へ輸送する仕組みの大げさであるのには誰しも驚かされるのである。

稲澤驛は畑中の一驛に過ぎないのであるが、其の貨物車仕分けの操車作業の大規模なのを見て誰でも一驚を喫するのである。

縣社大國靈神社は驛の西約半里の所に在る。大國靈命を祀り、もとは尾張國の總社であつた、毎年一月十三日の直會祭は俗に追儺

清洲

祭と呼び、人身御供の遺風たる裸體祭として有名である。

清洲は東海道線の西手、名岐鐵道清洲驛の所在地である。清洲城は古く室町時代から、慶長十四年に府を名古屋に移すまで、久しい間尾張國の治城であつたのである。今は鐵道線路に依つて中斷せられ、線路の北側には本丸の天守臺址があつて濠址だけを存じ、西南側は今は清洲公園となつて土壘の址を殘して居る。

清洲

此の城は室町時代に斯波義重の築城にかゝり、後ち織田信長此に據り、秀吉秀次を經て文祿四年福島正則を此地に封じ、後ち德川時代となつて家康の子忠吉・義直相次いで城主となつたが慶長十五年名古屋城に移るに及んで廢城となつたものである。

一ノ宮市

清洲町には縣立農事試驗場があり、土地柄蔬菜・果樹・園藝の試驗場として夙に其の名を知られて居る。

一ノ宮市は尾張北部の平野中に位置し、古來機業地として發達し來り今は特に毛織物の產出を以て其の名四方に聞えて居る。

市の內外に大日本紡績・東洋紡績・片倉製絲紡績・長谷川毛織等の工場があつて機織の業が盛んであり、人口は已に四萬を超えて居る。

眞清田神社

縣社眞清田神社は市內東町に在る。延喜式內の古社で天火明命が祀られてある。例祭は毎年四月二十二日で四月三日の桃花祭には神輿の渡御あり、數百の獻馬が供奉し、馬上には飾物を乘せて行進する、從つて市中も大ひに賑ふのである。

木曾川堤ノ櫻

尾張平野

一宮市役所

一ノ宮には縣立中學校がある。

愛知縣での終驛木曾川驛の北半里、光明寺附近約一里の間、宮田附近約半里餘の間、木曾川堤の櫻樹約二千本、彼岸櫻と枝垂櫻で花時は誠に見事である。天然記念物に指定せられてある。

尾張平野は關東平野・越後平野と相並んで本邦屈指の平野である尾濃平野の主要部分で、愛知縣の大寶庫であるのである。

即ち木曾・揖斐・長良の三大川の下流の部分に出來た冲積層の平野で、氣候の溫暖と地味の豐饒なので農產物の生產に適し、米麥桑園の外、蔬菜類の栽培に適し、其の生產實に夥しいものである。本縣人たるもの今後益々科學的統制的の耕作栽培を續け、以て此の

天與の惠澤を十分に發展せしむる覺悟と努力とがなくてはならぬのである。

第六　關西・尾西沿線

關西本線は名古屋驛を起點として三重縣に入り、亀山・柘植を經て奈良に寄り大阪の湊町驛に至るのである。

尾張大橋

名古屋を出ると廣大なる鐵道工場の連續するのを左にして程なく八田驛に着き、庄內川を渡つて蟹江に着く。平野中の一驛でそれから永和驛を經て彌富驛に着くのである。これが愛知縣での最終驛で、次は木曾川に近時架せられた尾張大橋の大鐵橋を渡つて三重縣の長

島に入り桑名に至るのである。

彌富驛附近の水郷は田圃と水とが相半ばし、盛んに養魚をなし特に金魚の養殖が盛んである。彌富町を中心として近村から遠近特に京濱京阪神方面に移出せられる金魚は、毎年一千三百餘萬尾に及び其の金額實に三十五萬圓の高額に達し當地方の一大富源となつて居るのである。

津島神社

彌富驛から北へ名岐鐵道の電車が津島を經て新一ノ宮驛まで通じて尾西地方に交通の便を與へて居る。

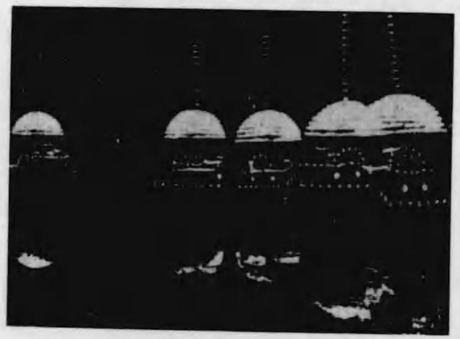
津島町は人口二萬に近く、愛知縣西部の名邑である。名古屋から電車も直通して居る。麩と團扇が此の地の名産で商業も盛んである。

國幣小社津島神社は町内の向島に在る。もと牛頭天王社と稱し牛頭天王の日本總社と云はれて居た神社である。祭神は建速須佐之男命である。

今の社殿は天正元年織田信長の造營と傳へられ、古杉老松の中に朱塗の社殿が見えて、如何にも森嚴の感がするのである。

船祭

例祭は毎年六月十五日に執行せられるのであるが官祭の外に催さるゝ船祭は一に車樂祭とも呼ばれ滿船に提灯の燈火を默した數叟の船が前後相續いて渡り來る光景は實に壯麗を極め、遠近か



船祭

ら此の特殊の神事を見物に來集する者多く夜を撤して非常な雜沓を極めて賑ふのである。

津島には縣立中學校及び高等女學校がある。

津島町附近の農村からは庭樹苗木の產出夥しく、遠近に向つて盛んに賣出して居るのである。

第七　新舞子・大野・常滑・野間・內海

愛知電氣鐵道の常滑線は名古屋の熱田の神宮前を起點として大野を經て常滑まで約三十粁走つて居る。

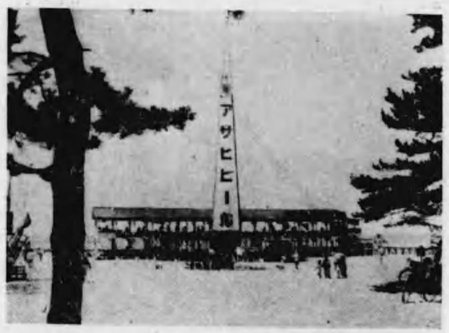
神宮前から五ツ目に聚樂園驛がある。海拔三十米の崖上にある公園で廣さ三百三十アール、眼下に名古屋港を見下ろし、伊勢海を隔てゝ伊勢美濃の連山を展望せられ眺望頗る宜しい。

園に隣接せる上野山に身長十九米で世界第一と誇る大佛が建立せられた。佛體はコンクリートで外面は靑銅色を呈して居る

聚樂園

横須賀

新舞子



新舞子海水浴場

今上陛下の御成婚記念に建てられたものである。

聚樂園から三驛を隔てゝ横須賀に着く、地方に於ける物資集散の一邑である

横須賀から五驛をおいて新舞子驛に着く名の示す如く、白砂靑松の有樣恰も播洲の舞子に似て居るといふ所から此の名を得て居る

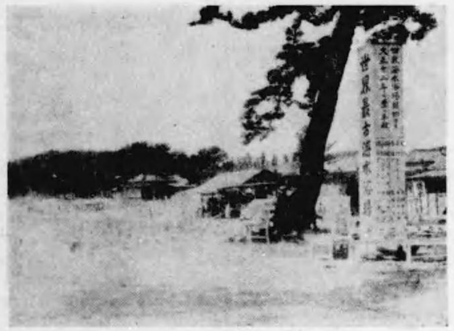
新舞子

のである。海岸一帶海水浴に適し、溫浴場、動物園、テニスコートを始めとして、すべり臺、飛込臺、大納凉臺等海水浴客を樂しましむるに足る幾多の設備を整へ、海

大野

水浴の一名所となつて居るのである。旅館舞子館は宏壯なものである。

新舞子に續いて大野海水浴場がある。兒童、海水プール・人造海水大瀧・納凉棧橋・潮湯の溫泉なども設けられ、夏季新舞子に次いで多くの海水浴客を集めて居るのである。



大野

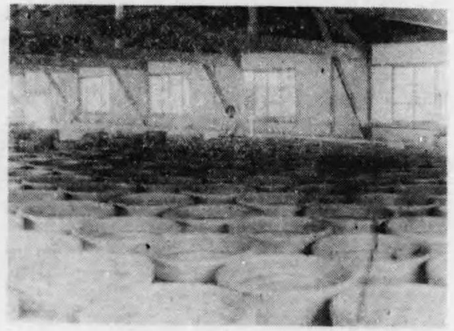
此處の潮湯は其の由來可なり古く、舊記にも見え、鴨長明も來り浴したと見えて其の歌に

生魚のおあへも清し酒もよし
大野の湯あみ日數重ねむ

といふのがある。

附近に大野城址、光明寺・濱藥師などの名所もあり、旅館も數戸ある。名物には一口香といふ御菓子がある。

常滑野間



陶器製造所

大野町から三驛を隔てゝ電車の終點常滑町に着く。瀨戸の瀨戸燒の如く、古來常滑燒の名を以て其の名聲夙に四方に響いて居る。在來の陶管・火鉢・燒酎瓶の外に種々の陶器・タイルなどの製造並に白木綿の產出もなし、町況益々隆盛に赴いて居り、人口已に一萬を突破して居る有樣である。

電車は常滑で終つて居るが、それから伊勢海岸に沿うて南行すれば西浦を經て野間に着くのである。

野間は往昔源義朝が闇打ちに遭ふて悲慘な最後を遂げた所として、早くから人に知られて居る所である。今は海水浴場として知られ、遠淺の海と夕日の伊勢海に沒する景色がよいので名高い旅館も數戸ある。新義眞言宗の大師堂寺は此村に在る。幾多の

寶物を藏し境內に義朝の墓と傳ふる塔があり、其の周圍に大刀形の塔婆が山積せられてある。

野間の次が內海で、此所も海が遠淺で海水浴に適して居る。千鳥ケ濱からは伊勢の連山が見えて風光頗る宜しい。岩屋觀音・山寺・櫻谷等の名勝もある。旅館も二三戸ある。

師崎

第八　師崎・篠島・河和

內海の次は豐濱で其の次が師崎である。此處は知多半島の尖端で羽豆岬を以て三河灣と伊勢海とを左右に別ち、前面に篠島を迎へて居る景勝の地である。二見・鳥羽方面並に三河の一色方面へも船航の便がある。羽豆岬の外千賀城址、鳶ケ岬などの勝地があり旅館も數戸ある

る

師崎の前面海上には篠島・日間賀島・佐久島を始めとして數ケの島がある、此等の島々が點々として散在して居る有樣が、仙臺冲の松島に似て居る所から、東海の松島と呼ばれて居るのである。

師崎と篠島との間は海上僅に一里で勿論船便もあり、三河の蒲郡からも汽船が往來して居る。其の前濱と稱する靜かな汀は一に神風ケ濱とも云ひ、美しい砂濱が一粁も續き、水淸く遠淺であるから婦人子供の海水浴に適當して居る。されば近時海水浴場として大ひに聲價をあげて來て居るのである。旅館に古城館といふのがある。

篠島海水浴場

島中に「帝の井」といふのがある。延元三年八月後村上天皇が未だ東宮に在は

せし頃北畠顯信に奉ぜられたまひ海路東國に向はせらるゝ途中に颱風のために此の島に漂着せられ翌年三月まで滯留あらせられたといふのである。島の東南角なる東山の丘上に當時滯留なし給ふた址がある。

篠島帝井

師崎から知多灣の沿岸を二里ほど北進すると河和といふ町がある。衣ケ浦に臨み佐久島や日間賀島を東南に望んだ遠淺の海を控え、海水浴に適して居る。

第九　武豊線・龜崎・半田・武豊・知多半島

武豊線とは東海道本線の大府と武豊との間僅に二十粁ばかりの支線であるが、明治二十年頃東海道線を建設するに當り、材料を

横濱から船にて武豊に運び之を陸上げして使用する關係上、東海道線に先つて敷設せられた最も古い鐵道である

龜崎

龜崎町は衣ケ浦の奥まりたる海岸に在る。海波靜かで風景頗る宜しい。海岸に連る丘陵の中腹景勝の地に縣社神前神社がある。亀崎の人口は一萬五千であるが、此地は古來清酒の釀造が盛んに行はれた所であるが、近來は煉瓦や粉豆粕をも産出する樣になつて居る。

亀崎を出ると、左右に當地方の名産なる醬油や酢の製造工場並にカブトビールの工場が見える。さうして程なく半田に着くのである。

半田町は知多半島商工業の中心地で、前面に衣ケ浦を控へて

武豊

知多半島

半田

武豊町は人口六千餘開港場であると同時に味噌・溜・火藥・タイルなどを産し知多半島樞要の地である。

知多半島は伊勢海と知多灣との間に突出せる一半島であるが中央部とても大した山はなく、多くは丘陵に過ぎず、至る所田園開けて農産物豊富なる上に、東岸の半田亀崎方面には木綿と釀造業風光頗る宜しく、港と共に夙くから其の名が四方に響いて居る。人口一萬七千古來酢の産地として有名であるが、此頃では麥酒、溜の釀造も盛大となり、また綿絲紡績及び廣巾織物の製出が盛んである。

半田には縣立中學校及び高等女學校がある。

半田から成岩を經れば武豊である。

愛知電鐵

笠寺

鳴海

が盛んであり、西岸の常滑には製陶業發達し、陸上に於ける此の農工業の盛大なるに加へて東西兩沿岸の各地に於て漁業盛んに行はれ水陸産業の盛況、縣下は勿論全國にも多く類例を見ない程の生産地域で此の半島の一ケ年の生産高は山梨縣全縣の生産額以上であると云はれる程豊富な地であるのである。知多郡民たる者此の天惠と先人の努力とを堅實に維持して、將來益々偉大なる發展を遂ぐる樣奮勵努勉しなければならぬ次第である。

第十　愛知電鐵・鳴海・有松・知立

愛知電氣鐵道は神宮前から呼續・笠寺・鳴海・有松・知立・岡崎等を經て豊橋に達して居り、其の間實に六十二粁ある。

笠寺は俗稱で本名は笠覆寺、眞言宗に屬して居る。天平年間の創建と傳へられ、參詣者が多い。

鳴海町は人口一萬、天白川を隔てゝ名古屋市と相隣し、江戸時代

には東海道五十三次の一驛として鳴らしたものである。鳴海絞其の實有松絞は夙に全國に賣出されて有名なものである。近くに鳴海潟の古蹟もある。有名なる鳴海グラウンドは驛附近に在り、外野を加へると四萬人を容るゝに足るといはれて居る。

有松

有松町は鳴海絞の名で廣う其の名聲を博した有松絞生產の本場である。有松絞は慶長年中に竹田庄九郎といふ人が發案したものであるが、江戸時代を通じ今日に至つても猶ほ其の聲價を維持して居るのである。

桶狹間

有名なる桶狹間の古戰場は有松町の東郊にある。三方丘陵で圍まれた窪地で、永祿三年に今川義元が尾張へ浸入した際に、織田信長が之を追擊し、義元を殺し今川勢を潰走せしめた名高い古戰場である。當時戰沒せし諸將の墓などがある。

知立

知立町は愛知電鐵と三河鐵道との交叉する處に在る。知立と共に舊東海道の宿場で地方物資の集散地である。縣社知立神社は鸕鷀草葺不合尊を祀り、延喜式内の古社で俗に池鯉鮒大明神と稱へて地方人の尊信頗る厚い神社である。社前の多寶塔は國寶に指定せられてある。

刈谷町

第十一　刈谷・高濱・大濱・宮崎・西尾

東海道本線上り列車熱田の次が大高で其の次が大府それから刈谷に着くのである。

刈谷町は東海道線と三河鐵道とが十字形に交叉する處で、近年工業地として急激な發達をなし、豐田式自動織機の製作所・豐田紡績・日本陶管・東洋耐火煉瓦・泉製袋など幾多の工場があり、人口已に一萬五千を超え益々發展の運に向つて居るのである。

刈谷には縣立中學校がある。

驛の東南約一里なる依佐美村には日本無線電信會社の經營する無線電信送信所があり名古屋無線電信局の送信所となつて居

高濱

新須磨

無線電信送信所

り三重縣四日市にある受信所と相俟つて重要なる役目を演じて居る。波長は一萬七千二百米で獨逸のナウエン、佛蘭西のサンタシーズ、波蘭のワルソー、並に英吉利、伊太利、和蘭などの歐洲主要國の大無電局を對手にして通信を交換して居るのである。

刈谷から南へ二驛を隔てゝ高濱町に着く高濱港と共に衣ケ浦に面し、物資集散の役目を演じて居る。

高濱から新川等二三の驛を經て新須磨に着く。前面は衣ケ浦に臨み、知多半島に向ひ、遠くは伊勢の朝熊岳も見える。新須磨の名稱決して空しくなく、松林砂濱長く續き、海水浴の設備も出來て居て好箇の清遊地である。附近には油淵笠橋應仁寺稱名寺などの勝地もある。

大濱

新須磨

新須磨の次は大濱港で、對岸半田との間に船便も繁く、有力なる土地である。

電車は大濱から棚尾・平阪・寺津・一色・吉田等の諸邑を經て、三河鳥羽まで延びて居り、地方輸送上多大の便益を與へて居るのである。

三河一色驛所在の一色町には諏訪神社があつて、六對十二張の大提灯がある其の最大のものは胴の廻り七米、高さ十米もあり、何れも美しい彩色畫が描かれてある、毎年一回夏祭の夜にのみ點火するのである。

宮崎海水浴場は愛知電鐵の吉良吉田驛の東南三粁、三河鐵道の宮崎口驛の東南一粁半の所に在り、衣ケ浦に面して水清く、正面に梶島、西に佐久、日間賀、東に藤島浮島などがあつて、風景極めて宜し

く海水浴の設備も完全して居る。附近に縣社幡豆神社・梶島辨天などの勝地がある。

また別に平阪港からは電車が幡豆郡の中心地なる西尾町を經由して、北は安城へ、東北は福岡を經て岡崎へ、南方は吉田へも通じ所謂四通八達の形勢になつて居り、交通至極便利に出來て居るのである。

西尾町は松平氏六萬石の舊城下で人口一萬七千養蠶業の盛んな土地である。

第十二　擧母・猿投・足助

三河鐵道は刈谷から北へ知立を經て擧母に通じ、更に猿投を經て西中金まで約三十粁通じて居る。

電車刈谷から知立を經て次が八ッ橋である。此處には臨濟宗の無量壽寺といふがある。本堂に業平の像があり、境内に「かきつばた」の池もあり、三河八ッ橋の舊蹟として有名である。

擧母

擧母町は八ッ橋から四ッ目の擧母驛の所在地で矢作川の西岸に在る。もと内藤氏二萬石の舊城下で今は人口一萬五千に近く、附近には搗粉を多く出す砂山がある。また町内に臨濟宗の長興寺といふのがある。國寶の涅槃圖を藏して居る。

擧母

勘八峽

勘八峽は平戸橋驛から約九百米、勘八山の西麓を流れる矢作川の溪谷を云ふので、其の長さ一里餘り、舟下りの出來る勝地である。

また此の附近は鵜飼の名所である。

猿投神社

縣社猿投神社は俗に猿投宮と呼び、猿投驛の北約二里なる猿投村大字猿投に在る。延喜式内の古社で大碓命、景行天皇及び垂仁

足助町

安城

八幡神社

天皇を祀つてある。 擧母の城主當社を尊崇して神田を寄進し、江戸時代には七百餘石の社領を有して居たものである國寶の太刀や額を藏して居る。

足助町は三河鐵道の終點西中金澤の東約十粁の處にある。 山間の一小邑であるが足助氏の出身地として名高い。八幡神社は俗に足助八幡と稱し、本殿は室町時代の建築で國寶に指定せられてある。

第十三　安城町・明治用水

東海道本線刈谷の次が安城である。 安城町は本邦屈指の農業地域である碧海郡の中心に位置し、人口二萬三千、農業地としては

他に類例の無い發展を遂げたものである。 元來此の地方は東西約十六粁、南北約三十二粁、總面積二百七十方粁に亘る廣大なる平原で、大した山岳もなく、小松原さへ交る安城ケ原と稱せられし草野であつたのであるが、明治十四年に有名なる今の明治用水が開鑿せられてから、原野忽ち一變して今日の美田となり、今や全國に冠たる模範農地となつたのである、

明治用水

所謂明治用水とは矢作川の水を引入れ來り、之を三分して本線は高濱町から海に注ぎ西線は刈谷町の元刈谷から海に入り、東線は明治村の米津に至つて再び矢作川に注ぐ樣にし、此の本支線を基として更に幾多の支線が縱横に設けられ、總延長實に四十餘里に及び之に依つて昔日の荒野が良田と化し、其の面積碧

海・西加茂・幡豆を通じて實に一萬町歩に及んで居るのである。此の大事業は遠く文化年間都築彌四郎氏に依つて企畫せられたのであるが不幸にして病死し、其の後岡崎・尾州兩藩に於て同樣企畫せられしも、郡民の反對に會つて成らず、終に明治維新後岡本兵松、伊豫田與八郎の兩氏が文化の計畫をもとにして開鑿したもので、明治十四年四月に至つて竣工したものである。安城驛の北半里なる安城町字今に在る明治川神社は高靈産神を主神となし並に此等の功勞者の靈を合祀した神社である。

此の地方模範農地の特色は米作・養蠶・養雞・養魚及び果樹栽培等の各種を一つの農家で經營して年中勞力の分配及び農産收入を均等にする所謂多角形農業と、其の共同的組織的であるといふ點にあるので、其の實績實に顯著で、誠に有力なる造富の組織であるのである。

安城驛の南約一里なる櫻井村には二子・姫小川等の古墳が六つ

もある、何れも前方後圓の形式で悉く史蹟として指定せられてある。

安城の縣立農學校は有名なものである。

第十四　岡崎市

岡崎城址

汽車安城驛の次が岡崎驛である。岡崎市は岡崎驛から北へ三粁も離れて居り、電車と自動車で連絡をつけて居る。

享徳元年に西郷彈正稠頼が岡崎城を築き後徳川氏代つて城主となり、慶長以後度々城主が代つたが、明和以後は本多氏五萬石の城下として榮えたものである家康が生れた所とて康生町といふのがある。

岡崎城址は今公園となり、石壘・濠址などが殘存し、本丸址には礎石が遺つて居り、藩祖本多平八郎を祀れる縣社龍城神社がある。また二の丸三の丸址には圖書館其他の建物がある。

岡崎市は今や人口六萬六千、近年製絲・製綿・紡績・織布などの工業が盛んで特產物には三河木綿・八丁味噌・三州釜等がある。猶ほ市外の瀧附近からは花崗石を產し三州石として遠近に移出して居る。

矢作橋

三龍社は夙に名高く其他幾多の製絲・紡績・織物・鑄造等の會社工場がある。

市內伊賀町には有名なる岡崎種雞場がある。面積十六町歩の地に所々に雞舍を設け、飼育・改良蕃殖・種雞・種卵の配付產卵能力の檢定・養雞の指導奬勵並に養雞に關する技術の傳習等を盛んにやつ

て居るのである。

是字寺は市內の明大寺町にある。傳へ云ふ家康が左手に是の字を握る夢を見、之を模外和尙に判せしめたのに、天下を握る吉瑞と答へたので、此の寺を建てゝ和尙を開山とした、蓋し是の字は解けば日下人となるからだといふことである。

有名なる三河萬歲は古來三河地方の風習で、德川家康が將軍となつて以來、年の始には必ず江戶に上り、幕府に於て德川家の長久萬歲を祝つたものであるが、それが年中行事となり、今尙新年には各地へ出る慣例である。

岡崎は東海道線とは稍離れて居るが、電車が名古屋及び豐橋並に西尾方面や擧母へ通じて居る外、乘合自動車が尾張の瀨戶を經て高藏寺及び美濃の多治見等へ通じて四方への交通頗る便利である。

岡崎には縣立中學校及び高等女學校がある。

矢作

岡崎の西を流るゝ矢引川の長橋を渡れば矢作の町である。東海道の驛路に當つて有名な所である

第十五　蒲郡・豊橋市

西浦

汽車岡崎驛の次が幸田驛で其の次が蒲郡である岡崎と幸田との間に福岡町があり、幸田の東南約十粁に西浦海水浴場がある。蒲郡からは西南八粁で共に自動車の便がある。沙濱が長く續いて水清く大島竹島などに向つて風景が宜しい。

蒲郡

蒲郡町は人口一萬五千海水浴場として夙に其の名を知られて居る。竹島・大島・小島・佛島・亀岩など前面に點在して海上の風景頗る宜しい。附近には古鐘のある大塚寺、大樟のある清田・安達盛長の墳墓の在る長泉寺、五井山公園などの勝地がある。旅館には有名な常磐館、健碧館等數戸ある。

蒲郡からは渥美半島の福江や、篠島・師崎並に鳥羽二見の方へ船

御油

八幡宮

蒲郡竹島

便がある。

蒲郡の前面には有名な竹島がある。其の間僅に四百米で橋が架してあつて恰も腰越と江ノ島との様な有様で風光頗る宜しい。島内に八百富神社があり暖地の海岸性で常緑樹で全島を覆ひ、其の草木の種類百數十種もあり、天然記念物に指定せられてある。

蒲郡の次は海水浴場として、名もあり又乃木大將の銅像の在るので名高い三河三谷を經て御油である。御油町は東海道五十三次の宿驛として夙に名高く附近に縣社御津神社・御津山・新宮山・大奥寺等の勝地がある。驛から南一粁で海水浴場もあり旅館もあつて夏季には相當に繁昌するのである。

縣社八幡宮は御油の東南、愛知電鐵國府驛の東方八幡村に在る

三河國分寺址

創建の時代は明らかではないが、相當古い神社で現在の本殿は文明九年の建造で國寶に指定せられてある。

三河國分寺址は八幡宮の東隣八幡と稱する丘陵上に在り、今史蹟に指定せられてある。

三河國分尼寺址

三河國分尼寺址も亦國分寺址の續き清光寺の境内にあり、今史蹟に指定せられてある

豐橋市

豐橋

御油の次が豐橋市である。豐橋はもと三州吉田と稱し、東海道五十三次の名高い宿場である。大河内氏の舊城下で明治二年に豐橋と改稱したのである。

今日では人口已に十萬を突破し、製糸工業が盛んで、全國の繭の相場は此處で定まるといはれて居り、實に偉大なる近代的工業都市である。

縣社吉田神社は市内關屋町に在る。素盞嗚尊を祀り、永正年間には牧野氏・後今川義元・德川家康など深く之を崇敬したものである。

市外高師村には騎兵第四旅團司令部、市内中八町には歩兵第十八聯隊向山町に工兵第三大隊があり、市役所、商工會議所の外、米穀取引所もある。

工場としては石川組製絲・大林製絲・清水製絲・小松製絲・カネ仙製絲・大墨舘製絲・氏原製絲・金子製絲などがあつて、工業都市の内容は頗る豐富である。

第十六　二川町及其の附近

高師原

東海道線の上り豐橋の次は二川である。二川を過ぎると次は靜岡縣の鷲津を經て濱名湖に出るのである。

豐橋と二川との間は有名な高師原（たかしはら）である。其の邊の一帶は赤土のはげ丘で山と云ふべき高地もなく見渡す限り數尺に足らぬ

小松原で所謂廣漠たる原野である。されば此の地は陸軍の演習地に適し、工兵の作業等に屈强の地であつて夙くから其の目的に使用せられてあり、全國でも屈指の有名な演習地である。

二川町

二川町は丘陵中の小邑で特に取立てゝ述べる程の事物も無いが、町の附近には往昔の松並木が今尙多く殘存して居て昔時を追懷せしめるのである。

岩屋觀音

有名な岩屋觀音は高師原から二川町に入る左方の松林の中にある大岩石の山上に聳え立つて居る。車窓からよく仰ぎ見ることが出來る。

岩屋觀音

普門寺

古義眞言宗の普門寺は二川町雲谷にある。創建の時代は明らかでないが、平安時代に已に堂宇のあつたことを證するに足る遺物が寺寶として現存して居るの

である。本堂の中に國寶の彌陀・釋迦・四天王の像が安置せられてある。作風から見て鎌倉時代のものに相違ない。

東觀音寺

臨濟宗の東觀音寺は二川町南部の小松原に在る。これも創建の時代は明かでないが、中古武將の歸依厚く田園の寄進や堂塔の建立も屢々あつたのである。觀音堂の前方にある多寶塔は大永八年の建築で國寶に指定せられてある。

赤岩寺

古義眞言宗の赤岩寺は二川と豊橋との間の北方石巻村赤岩山の麓に在る、これまた創建の時代は明かでないが、建久年間に地頭安達盛長が本堂を再建して三河七御堂の一にしたと傳へられて居るから、頗る古いものである。

境内の愛染堂に安置せられてある愛染明王の坐像は鎌倉時代の特徴を表はして居る珍らしい作品で國寶に指定せられてある

第十七　豊川町

豐川町

豐川稲荷

豐川鐵道は豐橋市の吉田から豐川・新城・長篠等を經て鳳來寺口まで通じて居り、田口鐵道は鳳來寺口より三河田口まで通じ、別に鳳來寺鐵道は長篠から三河川合まで通じて居るから三河東部の山間部なる南北設樂及び八名郡も今日では交通頗る便宜になつて居る。猶ほこの鳳來寺鐵道は更に長野縣の飯田に達する豫定になつて居るから、將來は信州との交通も容易になる筈である。

豐川町は前記の吉田驛から四驛を隔てた豐川驛の所在地で豐川稲荷への參詣者で持つて居るとでもいふべき小都邑である。

四方に名高い豐川稲荷は嘉吉年間東海僧正の創建したものと傳へられ、始めの程は左程にもなかつたのであるが、江戸時代の末頃になつて俄に全國的に著名となり、今日では京都の伏見稲荷さては讃岐の金比羅樣と並べて矢釜しく云はれるほど著名になつて居るのである。吒枳尼天の信仰で名高く、特に相塲師や花柳界の人々に依つて深く信仰祈願せられ、遠近各地よりの參詣者年中

豐川辨才天

豐川稲荷

常に陸續として集り來り、其の盛況實に驚くべき程であるのである。今の本堂は昭和五年に再建せられた大建築である。

豐川町には別に曹洞宗の三明寺といふのがある。俗に豐川辨才天と稱し三河國司であつた大江定基の開基であると傳へられて居る。本堂は江戸時代の再建であるが、內陣には天文二十三年建立の宮殿が安置せられてある。其の棟札によると、此の宮殿は天文二十三年に吉田の城代伊東元實の建立したもので、札の裏面に堂の建立に世話をした人々の名前が列記してある珍らしいものである。

砥鹿神社

豐川驛の次驛三河一ノ宮驛の在る一宮村には國幣小社砥鹿神

社がある。大己貴命を祀る延喜式内の古社で、三河國一ノ宮である。社傳に依ると文武天皇の大寶年中に草鹿砥公宜が神託によつて祀つたものであるといふ。爾後明治の初年まで公宜の子孫草鹿砥氏が世々其の神官であつたのである。例祭は毎年五月四日である。寶物に我が國青銅器時代の銅鐸がある。

第十八　新城・長篠

新城

三河一宮から五驛を隔てゝ新城町に着く。

新城町は山間の小都邑で地方物資の集散の地、今縣立高等女學校が在る。

長篠古城址

新城町から數驛北進すると長篠古城址驛に着く、此處は長篠村に屬し、三輪川と寒狹川とが合流する處で城址は其の交流する突端部に在る。背面には山を負ひ三方自然の斷崖になつて居る要害の土地で、本丸址には土壘濠址などが今に残存して居る。

長篠城址

此の城は永正五年今川氏親の築城にかゝり、後ち武田氏の有となつたが、信玄の沒後、德川家康之を攻略して奥平信昌を茲に置いたのである。天正三年に武田勝頼が攻め來つて、此の城を奪はうとしたのであるが、家康織田信長の應援を得、諸將を率ゐて奮戰し遂に武田方の敗戰となつた有名なる長篠の戰のあつた所で、其の戰役に奮闘した奥平方の勇將忠臣鳥居强右衛門の墓なども残つて居る。此の遺址は史蹟に指定せられて居る。

第十九　鳳來寺・鳳來寺山

鳳來寺村は豊川鐵道の終點と田口鐵道の起點である。鳳來寺

口驛と鳳來寺驛の二驛がある。

鳳來寺は古義眞言宗に屬し、有名なる鳳來寺山の中腹に在る。

溪谷景勝の地、朱塗の仁王門、古杉老松の欝蒼たる森林、巨岩左右に迫る參道、芭蕉翁の

木がらしに岩吹きとがる杉間かな

はよく出來て居る。

鳳來寺

仁王門から一千有餘殿の石階を登ると假本堂の前に出る。風景最も宜しい。

鳳來寺創建の時代は明らかでないが、德川家康、家光深く之に歸依し、伽藍を建立し、寺領を寄進しなどしたものである。

本堂址の東北隣に在る東照宮も亦三代將軍家光時代の建築で、仁王門と共に鳳來寺山中に於ける最古の建物である。

鳳來寺山は本名は煙巖山で全山が流紋岩から成立し、杉・樅・楓・樫・つが等の大木が全山を覆ひ、斷崖絶壁誠に雄大莊重の景を呈して居る名山である。山頂の瑠璃山は海拔六百八十三米で、其處から北方段戸の御料林、南方山々の波浪を越えて渥美の海及び半島、さては遙かに太平洋を望む風光は實に清澄雄大である。

佛法僧

山頂近くに奥の院もあり、山中では名鳥佛法僧の鳴聲を聞くことも出來る仙境である。

第二十　鳳來寺鐵道及田口鐵道

鳳來寺鐵道は鳳來寺口から今や三河川合まで通じて居る。山

間の溪谷を走る鐵道で、他地方の鐵道とは頗る其の趣を異にして居る。

湯谷溫泉

其の中間に湯谷溫泉がある。板敷川の溪流に沿ふた幽邃の境地で閑靜な所、泉質はアルカリ性で硫黃分を含有して居り、胃腸病や皮膚病に效果があるといはれて居る。旅館も數戶ある。

鳳來峽

鳳來峽

湯谷驛から次の三河槇原驛までの間豐川の上流なる板敷川に附けられたる名稱で、其の名の如く板を敷いた樣な岩の上を奔流し、所々に瀑布も生じ妙號池・浮石橋・チヤチヤ淵・琵琶が淵などの勝景を成して居る。附近の山々は春の若葉、秋の紅葉共に宜しく確かに一見に價する風景である。

此の線が豫定の如く早く信州の

へ通じたならば此の鐵道はさぞ面白いものとなり、多くの旅客遊覽客を引着けることであらう。

田口鐵道

田口鐵道は鳳來寺口から三河海老を經て三河田口まで通じて居る。

海老、田口

海老は山間の小邑、田口は北設樂郡の中心地、共に愛知縣の北海道などゝ云はれた山間部の僻地であつたのであるが、此の鐵道の開通に依りて一躍して世に現はれ出でた有樣で、其の無限の森產物は次第に富源たる眞價を發揮することが出來る樣になつた次第である。

第二十一　渥美半島

渥美鐵道

渥美半島には豐橋を起點とする渥美電鐵が田原町を通過して黑川原まで二十粁ほど通じて居る。

電鐵の外自動車は田原町から豐橋へ向ふもの北海岸の福江を經て伊良湖に向ふものゝ外、南海岸の赤羽根を經て伊良湖に向ふ

海上

ものゝ三線があつて陸上の交通は便利である。

更に海上の方、半島の南岸は所謂片濱十三里で斷崖になつて居て駄目であるが、北海岸の方は福江を起點として北方蒲郡へ及び西方篠島師崎の方へ汽船が往來して居るのである。

此の半島は知多半島と同樣で大した山とても無く、唯僅かに越戸が高さ三百二十八米で最高峰となつて居るのみである。南の太平洋岸が單調の絕壁であるのに反して北の渥美灣の方には田原灣福江灣の二灣があつて變化を見せ、更に西邊は砂濱が長く續いて有名なる陸軍の試砲場となつて居るのである。

田原

田原町は渥美半島の中心をなして居る小都邑で人口一萬三千、セメント工場がある。北海岸の田原灣には近年海苔の採取と養鰻が盛んになつて來て居る。

町内城寳寺の境内には渡邊華山の墓がある。華山は田原藩の家老で藩政に盡力したのであるが、傍ら深く外國の事情を研究し

夙に開國論を唱道した達識の士であつたのである。彼はまた畫を能くし、南畫の大家として有名なものであつた。天保十二年に自殺して果てたのである。其の邸宅の址は今池ノ原公園となつて居る。

百々陶器窯址

田原町より五驛東なる渥美電鐵の松山驛の南、一里餘の松山村一本木には山林内の傾斜面に築かれた窯址がある。奈良時代の窯址で現に陶器の破片が存して居り、史蹟に指定せられてある。入口は蒲鉾形で内部は亀甲形に造られ、底部は奥に至るに從つて登りになつて居り、内部の幅は三米長さ四米程で後方に煙出の孔が設けられてある。珍らしい遺物である。

吉胡貝塚

また田原驛の東北一里餘なる町内吉胡天崎には基地の南に面した斜面一帶の畑地から多くの石斧・石鏃・石棒・石劍・骨角製品・土器土偶などの遺物を掘出し石器時代の人骨三百餘躰を發見して有名になつた所がある。尤も此の渥美半島には貝塚多く田原町の

西三里餘の泉村伊川津及び其の西南一里餘の福江町の保美からも人骨や多くの遺物を發見せられたのである。

鸚鵡石

渥美電鐵の終點黑川原の西南三里餘の泉村馬伏には有名な鸚鵡石といふのがある。谷側にあつて聲を出したり、歌つたり、樂器を奏したりすると、それがかすかに反響して恰も鸚鵡が人眞似をする樣であるといふ所から此の名が出て居る。

海水浴場

田原から西福江に至る北面の海濱なる片濱・馬草・江比間などの海邊は白砂遠淺の海であるから海水浴の好適所である。何れも自動車の便がある。

福江

福江町は半島西部の中心地で、人口一萬二千、蒲郡や知多郡方面に汽船便もあつて至極便利である。福江灣には海苔が採れ、養鰻盛んである。

伊良湖岬

伊良湖岬は渥美半島の西端で其處から北の立馬岬に至る海濱一帶が陸軍の試砲場になつて居るのである。南岸は靑松連る砂

伊良湖岬

丘で日出の石門・沖の石門などの勝地もあり、附近の伊良湖明神の境內には歌人糟谷磯丸の碑もある。

石門の附近からは三重縣の神島を眼前に眺められ、遙かに伊勢の山々を望み風光極めて宜しいのである。

總じて渥美半島は所謂黑潮の暖流に面して居るために一般に氣候暖かく花卉の栽培が盛んに行はれ莢豌豆などは此の地の特產とまで云はれて居る。また伊良湖岬附近にはは。まゆう、はまざうなどの熱帶性植物もある。

第二十二　愛知縣の產業

吾等は縣下の各地へ旅行して、主要なる土地を訪ね、交通機關の

關係と、各地の大体の有様とを知ることを得た。縣下各地の事情に通ずるといふことは、縣民として第一に必要な資格である。

次には此等の知識を基礎として、縣民生活の根源である縣の富源の研究を積まねばならぬ。何んとなれば、人間は先づ食べて活きてゆかねばならぬ。生活の安定といふことが人生々活の先に立つ事柄である。いくら立派な家柄であつても、家族の生活が安全に出來て往かねば駄目である。人生々活の理論上は精神が第一で、物質は第二であるけれども、其の實際に於ては先づ以て物質的に生活が出來て、而して精神的の生活を完うしなければならぬのである。

自然の物資が豊富で、人口の少かつた時代に於ては、人間の生活が容易で何の苦もなかつたのであるが、今日はなか〳〵さうはゆかぬ。殊に日本の様に人口增加率の多い國では、一層其の生活問題といふことを、早くから且つ深刻に考へてかゝらねばならぬの

である。昔は「武士は食はねど高楊枝」とかいつて、呑氣な暮しをして居たこともあるけれども、また「子孫のために美田を買はず」とかいつて、瘠せ我慢をして居た人もあつたけれども、其等は皆人間生活の容易であつた過去の夢で、今日ではなか〳〵そんな呑氣なことを云つては居られぬといふことを、十分に承知してかゝらねばならぬのである。

何處まで往つても、また何時まで經つても、精神的生活を完全にするといふことが人生の第一義であることは決して動かぬことであるけれども、食べられなくては駄目である。活きてゆけなくては仕方が無い。故に先づ以て物質的に生活の安定を圖り以て精神生活を完うする基礎を作つてかゝらねばならぬのである。

此の事は一身に於ても一家に於ても、一市町村に於ても一府縣に於ても、はたまた國家に於ても、世界列國を通じても、皆同様に考へられるのである。否さう考へねばやつて往けぬ時代となつて

來て居るのである。現に生活の保證を得て居る人、富める家、富有な市町村、富源豊かな府縣、富有な國は呑氣に構へて威張つて居る。勝手なことを云ひ太平樂をかまへ面憎い程横柄で横著である。個人でも、一家でも、一國でも皆然りである。其の實際は今日の非常時に於て日々吾々の眼前に見せつけられて居るのである。此の點吾々のよく味ひ、よく〳〵考へねばならぬ處である。

其處で一通り縣下の事情を知つた吾々は、更に我が縣の物質的生活の根源である各種の資源が如何であるか、各方面の產業狀態が如何であるかを知らねばならぬ。

知つて而して、其の利害得失を研究しなければならぬ。働き甲斐のある仕事と最早末の見込みの多くない事業との見極めをつけなければならぬ。即ち吾々若い者が背負つて立つべき產業が何であるべきかを決定してかゝらねばならぬのである。

依つて茲に最近に於ける本縣の主要なる生產物に就きて其の

年產額を示し、以て研究調査の基礎を提供致す次第である。

愛知縣の生產（總額九億六千六百萬餘圓）

愛知縣統計調査課の調査に係る昭和八年各種生產統計調査の結果に依れば生產總額九億六千六百萬餘圓を算し昭和八年末現住一戶に付千七百二十六圓一人に付三百三十五圓の生產となる。而して前年に比べると總額に於て二億二千二百餘萬圓（三割）一戶當三百七十圓（二割七分四厘）一人當七十一圓（二割六分九厘）の著增である。之は主として各產業部門とも生產額は增進をなしてゐるが絕對數の最も多き工產の驚異的增進に起因すること大なるものがある。

生產總額を產業別に見ると次の通りである。

		百分比	前年ニ比シ增
農產	一二、二一三萬圓	一二、六	二、六〇割分厘

畜産	二、〇〇四	二、一	三、〇〇
林産	二七一	〇、三	二、九〇
鑛産	二〇八	〇、二	六九
水産	一、二一七	一、三	七五
工産	八〇、六八七	八三、五	三、一〇
合計	九六、六〇〇	一〇〇、〇	三、〇〇

農産は前年に比し二千五百餘萬圓の增加を示してゐる。之は主として、或種の例外はあるが一般的に農産品物價の昂騰に因るものであつて、之に加ふるに昭和八年本縣農産物は一齊に豊作で即ち主要農産品である米は一割一分六厘繭は一割六厘、小麥は一割一分九厘の增加で其他農産物も增收を示してゐるので結局兩者相待つて此の好成績を齎したものである。

畜産の前年比較增加率は工産に次ぐ三割の高率である。之は畜産總額の七割五分を占める養鷄に因るものであつて羽數、産卵

數量共に目醒しい增加である。

林産・鑛産・水産に於ても前年に比し何れも增加を示してゐる。此等各部門の生産品に付いて觀ても生産數量は大部分增加して減少せるものは僅かである。

工産は本縣産業の大宗であつて前年比較三割一分の增率を示し各産業部門中第一位で過去に於ても見ることの出來ない飛躍的增進である。蓋し昭和八年の工業界は輸出の增進、軍需工業の殷盛、インフレ景氣の浸潤等の諸事情に起因して各種の工業が擴大せられた結果と一般工業品物價の高騰とに因り此の好記錄を獲得したものである。工業部門別に前年と比較するに、紡織工産は三割の增加で、金屬の五割、機械器具の四割九分、窯業の三割一分化學の八割七分、食料品の一割八分、其の他の一割九分等何れも著しい增加である。

更に各生産品目に就いて前年と比較するに大部分は增額で減

額してゐるものは僅少である。

今増額してゐるものの主なるものを擧ぐれば、綿織物は四千九百萬圓(三割六分)の増加で綿絲の二千八百萬圓(四割三分)毛織物の二千萬圓(二割四分)毛絲の千二百萬圓(六割)鋼の百九十萬圓(十一割一分)軍需品類の千二百萬圓(五割)陶磁器の千二百萬圓(三割三分)等何れも激増振を示してゐる。

主要生産物價額(單位萬圓)

綿織物	一八、五五九	軍需品類	三、五一二		
毛織物毛交織物	一〇、四四二	毛絲	三、二九八		
綿絲	九、六〇一	繭	二、八九八		
蠶絲類	五、〇八六	麥粉	一、七八二		
米	五、〇四六	和洋菓子	一、五四五		
陶磁器	四、六七二	桑葉	一、四八〇		

染物(染賃)	一、三二七	メリヤス製品	八五一		
鷄卵	一、〇六三	麥酒	八四七		
絹織物	一、〇四五	麥	六八〇		
清酒	一、〇一六	絹綿交織物	六三九		
木製箱類	八八六	醬油及溜	五八〇		

郡市別生産總額(單位萬圓)

	農産	畜産	林産	鑛産	水産	工産	總額	昭和七年ニ比シ増加割合
名古屋市	二七二	三五七	〇	三	六三	三九、四一六	四〇、一一一	三・一四
豊橋市	四三〇	二〇二	〇	一〇	一五二	三、〇九六	三、八九〇	一・六一
岡崎市	一六九	三六	二	五	三	一、八八八	二、一〇三	二・〇六
一宮市	三四	一七	〇	—	〇	三、〇四五	三、〇九六	三・一二
瀬戸市	一三	二	〇	二	〇	一、二四八	一、二八三	・三三
愛知郡	四七二	五八	四	一四	九二	六八	七〇七	二・〇二

東春日井郡	八三八	九〇	二	二九	〇	七二五	一、六八三	二、〇三
西春日井郡	四三七	七九	一	一	〇	一、八八一	二、三九九	三・五六
丹羽郡	九六一	八三	三	一	一	一、八三六	二、八八六	二・七五
葉栗郡	二六八	九	〇	八	二	一、五三四	一、八二一	三・〇五
中島郡	七八六	三三	一	一	一	六、一八八	七、〇〇七	三・六八
海部郡	一、〇〇〇	七二	一	一	七八	四、三七二	五、五二二	一・九八
知多郡	一、〇五一	二〇四	七	一八	二二〇	八、五〇九	一〇、〇〇九	四・〇七
碧海郡	一、三五一	二九一	二	一九	六三	三、一四四	四、八七二	三・四三
幡豆郡	七七七	六四	五	三	一七九	七七二	一、八〇〇	・八六
額田郡	三八二	三三	二〇	一四	〇	一九四	六四二	三・〇七
西加茂郡	五六七	四一	一三	一九	三	一五八	八〇九	二・四三
東加茂郡	二二六	八	四六	四	六	一六	三〇六	二・七九
北設樂郡	一〇八	八	八七	一二	一	三三	三五〇	二・八六
南設樂郡	二五七	二三	四六	四	二	五二	三八四	三・九〇
寶飯郡	七一二	九四	五	二三	二五三	一、九八二	三、〇五八	三・七九
渥美郡	六七六	一七三	六	一三	九八	一、四八八	一六四	
八名郡	三二三	二四	一八	〇	一	八	三七四	三七七
總計	二、二二三	二、〇〇四	二七一	二〇八	一、二二七	八〇、六八七	九六、六〇〇	二九九

（備考）內容ト合計ト符合セザルモノアルハ單位未滿四捨五入ノ關係ニ因ル

吾等は之を通覽し、攻究し、以て一身、一家、一市町村乃至は我が縣の前途の發展を計畫してかゝらねばならぬのである。それがやがて鄉土を愛する所以であり、國家に盡す所以であるのである。

第二十三　愛知縣の財政

一家の生活には豫算を立てゝそれに依つて日々の暮しをしてゆく樣にせねばならぬ。一國の上に於ても同樣で、必ず前年中に翌年度の豫算を決定し、萬事それに依つて實行してゆくことになつて居るのである。故に家族としては一家の生活豫算を知り國民としては一國の財政豫算を承知して居て生活してゆくといふ

風でなければならぬ。

縣民としても亦同樣で、必ず一縣の財政狀態を知り、費用の負擔をなし、以て縣民としての生活を完うする樣であらねばならぬ。

毎年縣會の決議を經て決定實施せられる縣の豫算は縣活動の根本であり、是に依つて縣の施設活動が演ぜられるのであるから苟も縣民たるものは十分に其の內容を知悉して居らねばならぬのである。

凡そ縣民は此の豫算の施行に依つて、縣民としての利益と幸福とを享有してゆくのであるが、同時に此の縣經費を提供納付する義務と責任とがあるのであるから、其の兩方面からして十分之を知悉して居らねばならぬのである。

それで愛知縣の經濟が如何なる有樣であるかを知るために、茲に昭和九年十二月に愛知縣會で決議せし昭和十年度の縣豫算を掲げやう

昭和十年度愛知縣歲入歲出豫算

歲入

經常部		
第一款	財產收入	一六、二七九円
第二款	使用料及手數料	一、三六九、五九九
第三款	國庫下渡金	一三九、二八九
第四款	國庫補給金	一三、〇四六
第五款	雜收入	三四〇、二〇五
第六款	市郡分賦金	
內譯		
市部收入		二、六七四、一一〇
郡部收入		二、七八三、二五七
計		七、三三五、七八五
臨時部		

第一款　國庫補助金	七三四、四二六円
第二款　國庫奬勵金	二七一、三二七
第三款　寄附金	四四六、六二九
第三款　財産賣拂代金	三
第五款　縣債	一、八七七、〇〇〇
第六款　繰入金	二八五、八三〇
計	三、六一五、二一五
歳入合計	一〇、九五一、〇〇〇
歳出	
經常部	
第一款　神社費	一四、一三一円
第一項　神社費	一一、一三四
第二項　供進費	三、〇〇〇
第二款　會議費	一一、八三九
第一項　縣會議費	九、六二一

第二項　縣參事會費	二、二一八
第三款　縣職員費	六六八、六八九
第一項　俸給及諸給	五九六、五七二
第二項　廳費	四三、〇二六
第三項　調査費	二九、〇九一
第四款　警察費	四〇六、三六六
第一項　俸給及諸給	三〇四、二六四
第二項　廳費	七九、一〇二
第三項　機密費	二三、〇〇〇
第五款　警察廳舍修繕費	一、二〇二
第六款　土木費	四四一
第七款　教育費	一、八五六、三二六
第一項　師範學校費	二二五、四五七
第二項　中學校費	六八五、六六九
第三項　高等女學校費	三八〇、六〇一

第四項	農林學校費	八〇、〇〇八
第五項	農蠶學校費	四二、七五八
第六項	蠶絲學校費	四一、六九三
第七項	農學校費	八〇、七六九
第八項	工業學校費	八五、九六六
第九項	起工業學校費	二二、三九三
第十項	窯業學校費	二八、三六〇
第十一項	陶器學校費	二二、八一二
第十二項	商業學校費	六九、七四一
第十三項	盲學校費	一八、六〇四
第十四項	聾啞學校費	二六、八三六
第十五項	工業實務學校費	四、五二五
第十六項	恩給金	一七、二八一
第十七項	中等學校修繕費	一三、八四三
第十八項	學事諸費	九、〇一〇

第八款	社會教育費	二七、九三二
第一項	青年訓練費	二、七二三
第二項	昭和塾堂費	一三、〇〇七
第三項	映畫教育費	九、四一六
第四項	體育指導費	一、四〇〇
第五項	社會教育諸費	一、三八六
第九款	衛生及病院費	二八四、二〇五
第十款	勸業費	一、一七五、一九八
第一項	勸業會費	二三五
第二項	地方測候所費	一九、六七六
第三項	農事試驗場費	一〇五、〇〇九
第四項	農產場檢查所費	二八一、四九九
第五項	果樹母木園費	一、三六八
第六項	蠶業取締所費	一三六、五四〇
第七項	蠶業試驗場費	八六、六八五

第八項	繭檢定所費	五八、七七九
第九項	水產試驗場費	一二六、八〇六
第十項	工業試驗場費	六一、一七一
第十一項	尾張染織試驗場費	三七、七五〇
第十二項	三河染織試驗場費	三三、二五四
第十三項	毛織物檢查所費	一七三、〇二二
第十四項	農產品販賣斡旋費	二五、一七五
第十五項	哈爾賓貿易館費	一三、四三三
第十六項	勸業諸費	一四、七四一
第十一款	社會事業費	二一一、九〇一
第一項	救育費	二六、四七八
第二項	愛知學園費	四四、八五二
第三項	地方改良費	八、五〇〇
第四項	方面委員費	四五、八八一
第五項	巡回疹療費	二六、四三七

第六項	輕費疹療委託費	五〇、〇〇〇
第七項	兒童虐待防止費	五、二一三
第八項	少年教護費	三、七七三
第九項	社會事業諸費	七六八
第十二款	都市計畫事業費	六四、一九三
第十三款	史蹟名勝天然記念物保存費	三、一五七
第十四款	財產費	六七九
第十五款	縣稅取扱費	八、七二八
第十六款	統計費	四、〇〇四
第十七款	諸達書及揭示諸費	二、三六九
第十八款	地方改良費	一、八八〇
第十九款	縣廳舍修繕費	一、八八〇
第二十款	收用審查會費	五六五
第三十一款	兵事費	三、六五三
第二十二款	豫備費	

計	**四、八二八、七三一**
市部負擔	二、三六六、〇七八
內郡部負擔	二、四六二、六五三
臨時部	
第一款　縣職員費	一六、三一三
第二款　警察廳舍建築費	三〇、〇〇〇
第三款　警察補助費	三、〇〇〇
第四款　土木費	八、三九八
第五款　教育費	一三〇、六六六
第六款　教育補助費	一一六、三〇五
第七款　社會教育費	七、一七〇
第八款　社會教育補助費	一、九七〇
第九款　市町村立小學校教員加俸資金編入金	七二、五八〇
第十款　小學校教育恩給補充金	一、三四一、六五八
第十一款　公立學校職員年功加俸資金編入金	一一八、六二三

第十二款　兒童就學獎勵資金編入金	二、五〇一
第十三款　男女青年團體事業獎勵資金編入金	六、一〇六
第十四款　教育費寄附金	五〇、〇〇〇
第十五款　衛生補助費	五〇、八三五
第十六款　勸業費	五九五、三八九
第十七款　勸業補助費	三九〇、一九六
第十八款　勸業費縣費補充金	六一、五〇一
第十九款　社會事業補助費	一〇九、九一三
第二十款　地方改良事業補助費	二、六五二
第二十一款　統計費	六、三九六
第二十二款　統計補助費	二〇、六一一
第二十三款　在鄉軍人費補助費	二、七五〇
第二十四款　傷痍軍人會補助費	三〇〇
第二十五款　神職會補助費	一、八〇〇
第二十六款　土木費中失業救濟庄內川改修費本年度支出額	五〇〇、〇〇〇

第二十七款	教育費本年度支出額	二
第二十八款	勸業費中用排水改良事業費本年度支出額	八八〇、〇〇〇
第二十九款	縣廳舍警察廳舍建築費本年度支出額	一、三三一、六六三
第三十款	繰戻金	四八、七〇九
第三十一款	縣債費	二〇五、〇二五
第三十二款	縣債費補充金	九、二四五
計		六、一二二、二六九
歳出合計		一〇、九五一、〇〇〇

第二十四　愛知縣總括

管轄

愛知縣は尾張・三河の二ケ國を管轄し、更に之を左の五市十八郡に區劃して居るのである。

尾張國

名古屋市　一宮市　瀬戸市

面積、人口

愛知郡　東春日井郡　西春日井郡　丹羽郡

葉栗郡　中島郡　海部郡　知多郡

三河國

豊橋市　岡崎市

碧海郡　幡豆郡　額田郡　西加茂郡　東加茂郡

南設樂郡　北設樂郡　寶飯郡　渥美郡　八名郡

縣の總面積は五千八十一平方粁で、人口總數が昭和五年十月一日の國勢調査で二百五十六萬七千四百十三人、其の世帯數が五十二萬一千百四十六となつて居る。今之を市郡別にして見ると左の通りである。（昭和八年十月一日現在推計）

名古屋市	九十八萬九千六百人
豊橋市	十五萬七百人
岡崎市	六萬九千四百人
一宮市	四萬六千七百人

瀬戸市　四萬九百人

郡部　百四十一萬六千人

周圍

愛知縣の北方は、西部は木曾川東部は連山を以て岐阜縣及び長野縣に接し、西方は三重縣、東方は靜岡縣に、南方は遠州灘・三河灣及び伊勢海に面して居るのである。

愛知縣は大體が平野であるから、大した山は無い。唯尾張・三河・美濃の國界に三國山(七百米)其の南に猿投山(六百二十九米)があり、三河に本宮山(七百六十九米)鳳來寺山(六百八十四米)の外、北方に段戸山があるだけである。

河川

河川も左程多くはなく、尾張に木曾川・庄内川があり、三河に矢作川・大平川及び豊川の三川があるのみである。

道路

道路は東京と京都とを結ぶ國道が東靜岡縣から入り來り、二川・豊橋・岡崎・名古屋を經て三重縣に入り、また名古屋から岐阜へ向つて居るものがある。其他縣道は平坦地のことゝて縣下の各地へ

鐵道

十分に普及發達して居るのである。

鐵道は東海道本線が靜岡縣の鷲津から二川に入り來り豊橋・岡崎・大府・名古屋・木曾川を經て岐阜縣に入り、中央線が名古屋から定光寺を經て岐阜縣の多治見に向ひ、關西線が名古屋から彌富を經て三重縣の長島に向つて居る外、大府から武豊へ支線を出して居る。

此の外豊川鐵道は豊橋の吉田から長篠まで二十八粁走り、鳳來寺鐵道が長篠から三河川合まで十七粁、田口鐵道が鳳來寺口から三河田口まで十八粁通じて居る。

また愛知鐵道本線が豊橋の吉田から熱田の神宮前まで六十二粁通じ、同西尾線が岡崎新から吉良吉田まで二十一粁、同西尾から湊前まで四粁通じ、碧海電氣鐵道が今村から西尾まで十五粁通じて居る。猶ほ三河電氣鐵道の岡崎線が岡崎驛前から上擧母まで十七粁、同本線が西中金から刈谷を經て三河鳥羽まで六十七粁通

じて居る。

次に愛知電氣鐵道の常滑線が熱田の神宮前から常滑まで二十九粁、同築港線が神宮前から西六號まで五粁通じ、築地電軌が築地から下之一色まで六粁通じて居り、下之一色電車軌道が下之一色から新尾頭まで六粁通じて居る。

更に中村電氣軌道が名古屋の明治橋から公園まで通じ、新三河鐵道が名古屋の千早から八事まで五粁、瀨戸電氣鐵道が名古屋の堀川から尾張瀨戸まで二十一粁通じて居る。

また名岐鐵道の名古屋線が名古屋柳橋から岩倉を經て東一宮まで二十一粁、岩倉から犬山口を經て新鵜沼まで十七粁、犬山口から廣見まで十五粁、岩倉から小牧まで五粁、柳橋から須ケ口を經て新津島まで十八粁、須ケ口から新一宮を經て木曾川橋まで二十一粁、新一宮から起まで五粁、新一宮から津島を經て彌富まで二十五粁、通じて居て、愛知縣の平野は實に交通機關が四通八達して居る

有樣である。

愛知縣は全國でも有數の有力なる大縣である。有力なる大縣といふのは、面積は必ずしも廣大ではないのであるが、其の生産力に於て富力に於て全國でも有數であるといふ意味である。即ち前にも述べた通り、昭和八年度調べの愛知縣の一ケ年の生産高は實に九億六千餘萬圓で、殆んど十億に近い生産額を示して居るのである。

斯く十億に近い莫大なる生産の内譯はどうであるかといふと工産が八億で最大部分を占め、次は農産の一億二千萬圓、畜産の二千萬圓、水産の千二百萬圓といふ有樣である。農産と水産とは自然の恩惠に依ると見ても差支へないのであるが、工産と畜産とは實に縣民の努力に基づくものである。

抑々愛知縣民は世に稀なる勤儉力行の風ある國民で、京の着倒れ、大阪の喰ひ倒れとは全く其の趣を異にし、實に能く働き、能く貯

蓄し、決して贅澤や驕りなどをせず、忍耐持久の美風ある縣民である。されば縣下を通じて一般に富有で豊かなる資力を持つ國民であるのである。彼の滋賀縣人が古來江洲商人として儉素忍耐の美風があつて能く大成して往くのと相並んで、愛知縣人は此の勤勉・儉素及び貯蓄の美風を何處までも保持してゆかねばならぬ。

其處に愛知縣の特色と偉大とを根附けなければならぬのである。お互ひに大ひに奮勵して此の鄕土の誇りを完うする樣にしなければならぬ。

鄕土教育

愛知縣誌（終）

昭和十年六月二十日印刷
昭和十年六月二十五日發行

不許複製

鄕土教育愛知縣誌奥附

定價金拾八錢

著作者　愛知縣鄕土教育研究會

發行者　東京市日本橋區通三丁目　野田改造

印刷者　名古屋市中區丸田町三ノ四　江塲東重

印刷所　名古屋市中區丸田町三ノ四　江塲印刷所

發行所　東京市日本橋區通三丁目　振替東京二八一三三　電日本橋四五一九
名古屋市中區惠方町一丁目　振替名古屋九二九六　電南三八〇九

發賣所　名古屋市西區御幸本町六丁目　振替名古屋一四二二　電本局二四八一

出版書肆　晟弘社

愛知書籍株式合資會社

終